



やま かみ かつ よし
山上 勝由
 自由民主党田原市議団



遊休農地を増加させないための取り組みは

「地域計画」の策定などに取り組む

優良農地の維持に向けた取り組みについて

問 農業者が減少する中で、遊休農地を増加させないための取り組みは。

答 地域の農地を次世代に引き継いでいくための指針となる地域計画の策定や、農地・園芸施設バンク等の制度を活用する取り組みなどを進めている。

問 地域計画の策定が今後の農地の集積・集約化にどのように役立つと考えているのか。

答 農業者が地域農業をより良くするための方策を話し合い、合意形成を図りながら計画の策定を進めることで、農業者が主体性を持った農地の集積・集約化の推進が図られると考えている。

問 今後、地域農業の中心となる担い手だけでは、全ての農地を維持することが困難になることも懸念されるが、市の対策は。

答 定年退職後の就農支援や、移住者への新規就農支援等を充実させ、農地の維持を図っていく。

問 環境に配慮した農地の土づくりの取り組みは。

答 土壌の環境改善や化学肥料削減に効果のある緑肥

作物の導入支援、家畜排せつ物を堆肥化する地域資源の活用、耕種農家と畜産農家による耕畜連携の取り組み支援、土づくり講演会等を行っている。

問 土壌診断の市内の取り組みは。

答 愛知県が地域の土壌の状態の把握に取り組んでおり、東三河管内300地点のうち本市では220地点の土壌分析をしている。

問 市は県の土壌診断の結果を今後の農地の土づくりにどう生かしていくのか。

答 土壌の情報や取り組むべき対策を生産者や農業関係機関と共有し、土づくりに生かしていきたい。



いづも施策の推進について

問 スムーズな就学への移行支援体制の構築に5歳児健診

は必要と考えるが、実施に向けての考え方は。

答 まずは現状の健診等で発達に課題を抱える子どもの早期把握と、その後の切れ目のない支援に向けて各関係機関と協議・連携し、支援体制の充実に取り組んでいきたい。実施については、医師会との協議や専門スタッフの確保を模索しながら、先進自治体の情報収集や近隣自治体の動向を注視していく。

問 ヤングケアラーの可能性がある児童生徒を見つけた場合の学校の対応は。

答 教員またはスクールソーシャルワーカーが聞き取りを行い、支援が必要な場合は、福祉等の関係機関と連携し支援を行う。児童生徒の観察や家庭状況の把握を継続し、必要な支援が継続されるよう、関係機関と連携していく。

問 ヤングケアラーに対し、実効性のある仕組みの構築を

期待するが、市の考えは。

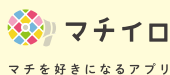
答 こども家庭センターを設置し、母子保健と児童福祉の連携を深めていく。支援の必要な子どもや子育て世帯の現状把握や相談支援等を行い、関係機関が連携した効果的な支援を行っていく。

スマートフォンで 議会だよりが読めます

利用方法



- ①下の二次元コードかアドレスからアクセス
- ②「マチイロ」をダウンロード
- ③個人設定→お住まいの地域を「田原市」に設定



https://machi.iro.town/lq/aichi_tahara